

重度・重複障害教育に携わる教員の専門性とモチベーションに関する研究

広島大学教育学研究科特別支援教育学専攻 安井彩子

問題の所在

<重度・重複障害教育に携わる教員に求められる専門性>

- ・医療等の幅広い専門的な知識技能(姉崎, 2001)
- ・教員のものの見方や考え方の定義・概念を見出す(齋藤ら, 2013)

重度・重複障害がある児童生徒の実態の多様さなどから、指導の適切さに不安や困難を感じている。

田尾(1993)
教員が意欲的に取り組んでもなかなか達成されない状態に対応
⇒モチベーションの管理が必要

重度・重複障害教育に携わる教員を対象としたモチベーションに関する研究は見られない。

目的

重度・重複障害教育に携わる教員の専門性とモチベーションの関係と、経験年数による専門性とモチベーションの変化について明らかにする。

教員が抱える指導の困難さを軽減し、教員の専門性の向上につながる支援の在り方について考察する。

方法

<対象>

全国の特別支援学校のうち、肢体不自由あるいは肢体不自由と知的障害の両方を教育対象としている294校において、平成26年度8月時点で重度・重複障害がある児童生徒を担当する、当該校勤務経験年数の異なる教員2名。

<調査内容>

- ・回答者属性:教員経験年数・特別支援学校経験年数・重複学級指導経験年数。
 - ・教員のモチベーションに関する36項目(山田, 2007)。
 - ・重度・重複障害教育に携わる教員の専門性に関する26項目(任, 2009)。
 - ・教員への効果的な支援と人材育成に関する課題に関して、自由記述を求めた。
- } 4件法

結果と考察

●回収状況

特別支援学校177校から回答があり、すべての設問に回答している者は280名であった。

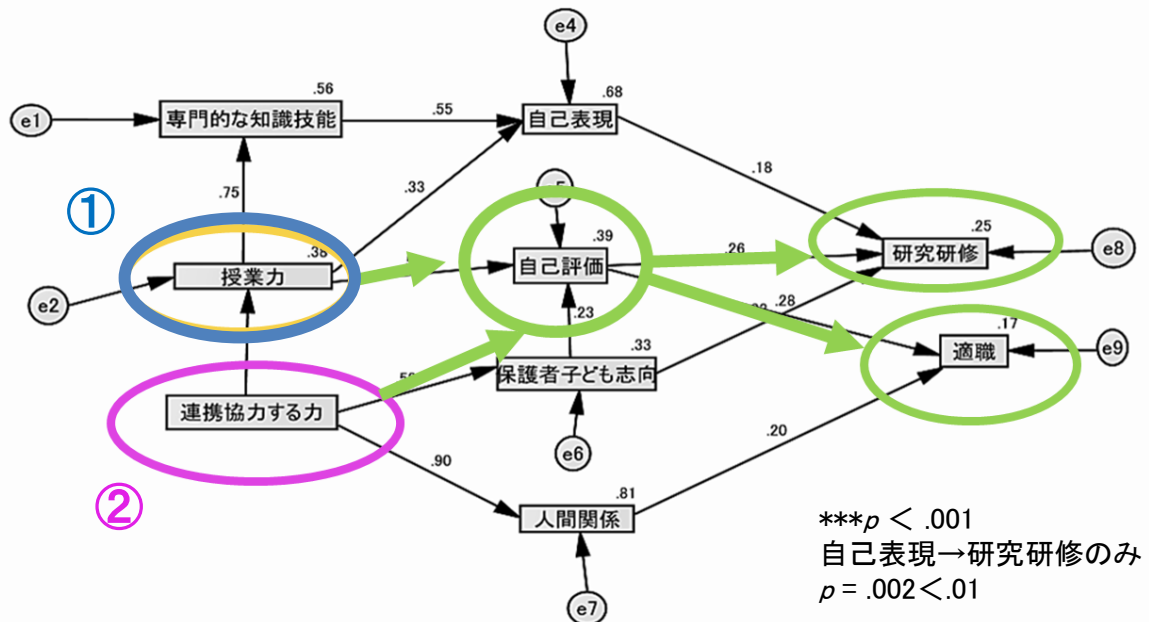
教員の専門性の因子

教員のモチベーションの因子

専門的な知識技能	重度・重複教育に携わる上で習得する必要がある知識・技能に関する項目	自己評価	教員が職務を遂行する上で、教員自身が自身を評価することに関する項目
授業力	教員が重度・重複障害がある児童生徒を指導する上で教員が判断・評価することに関する項目	保護者子ども志向	いずれも教員の保護者や子どもへの対応に関する項目
連携協力する力	教員が教員間や他職種、保護者との連携を通して行われている項目	人間関係	教員の人間関係に関する項目
		研究研修	教員の研究・研修に関する項目
		適職	教員が「教員」という職に適するかに関する項目
		自己表現	教員自身の自己表現に関する項目

結果と考察

●専門性がモチベーションに与える影響



①授業力に対する支援

- ・教員が必要としている研修を行う。
- ・授業実践の中で保護者や子どもの意見を取り入れた指導内容の工夫をする。

②連携協力する力に対する支援

- ・児童生徒に対する指導を1人ではなく複数の教員で行うという環境を整える。
- ・実践に対する他の教員や異職種 of 専門家からのアドバイスを得る。

●経験年数による専門性とモチベーションの変化

<教員経験年数>

- ・「連携協力する力」「人間関係」⇒「教員として基盤となる専門性(齋藤, 2010)」
「教員として基盤となる専門性」を身に付けているかに影響を受ける。
- ・「授業力」⇒「特別支援教育において求められる専門性」
- ・「専門的な知識技能」⇒「重度・重複障害教育に求められる専門性」

教員経験年数ではなく、特別支援学校経験年数や重複学級指導経験年数の影響を大きく受ける。

<特別支援学校経験年数>

- ・「授業力」・・・教員の主観的な評価に依存しがち(但馬, 2011)
- ・「専門的な知識技能」・・・児童生徒の障害に関係なく特別支援教育において求められる専門性も多く含まれている。
→重複学級指導経験年数によらない。
- ・教員は他校種に勤務することにより、様々な障害に関する専門性を身に付けている(西川, 2009)。
→教員が持つ様々な専門性を用いながら児童生徒の指導を行っている。

<重複障害学級指導経験年数>

- ・教員経験年数や特別支援学校経験年数が長い教員は、重度・重複障害がある児童生徒の指導に対して不安や困難さ(永松, 2003)を感じている。
- ・重度・重複障害教育に携わる教員が抱える困難さや不安(永松, 2003)があったとしても、教員がこれまで培ってきた専門性(西川, 2009)を用いて、指導の不安や困難さに対応している。